

二十年ぶりに再会した母が
誘惑してくる



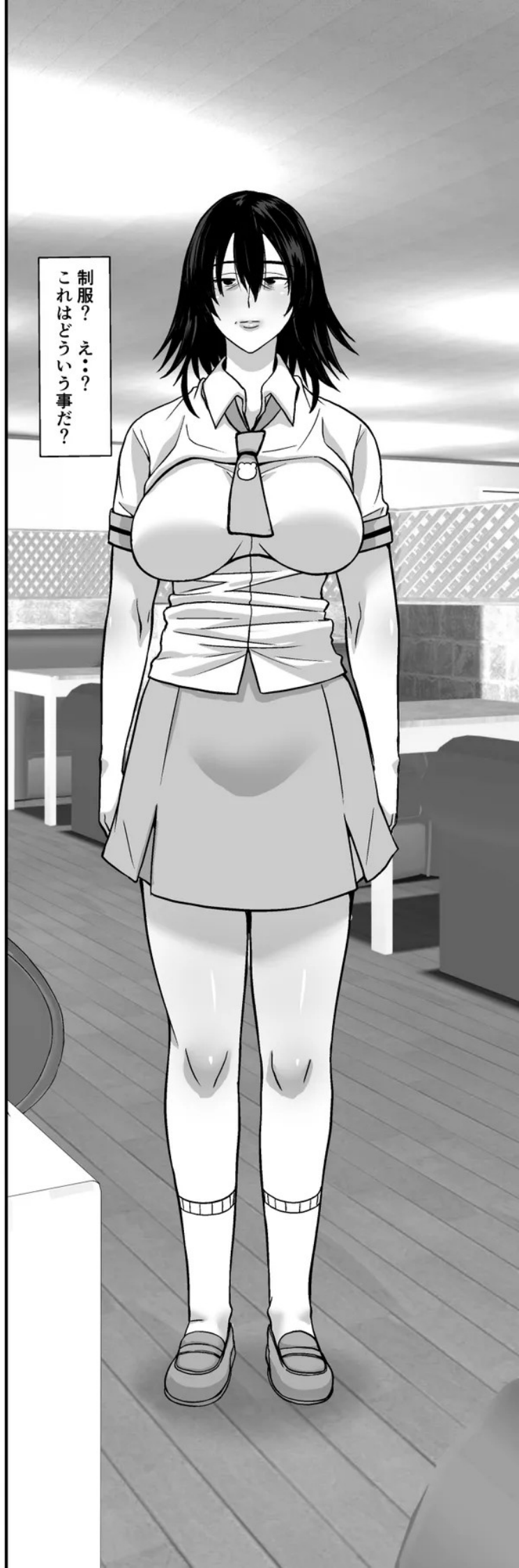


オレは今日
オレを捨てた母親に
会う約束をしてたはず…



よく見れば
口元と目元のシワから
四十代前半ぐらいか

いや年齢が
わかりづらい見た目で
制服着てるけど

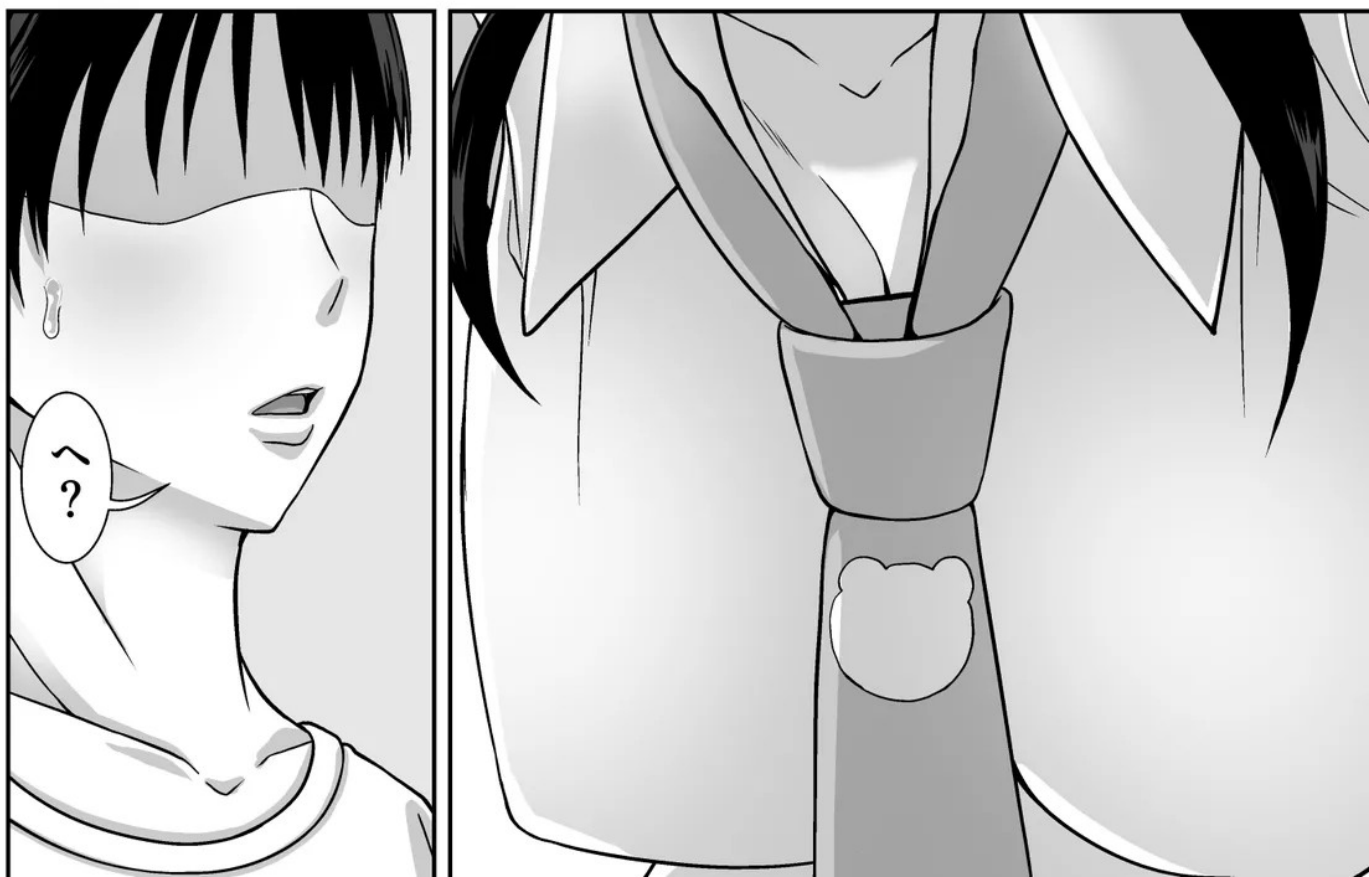


制服？ え…？
これはどういう事だ？

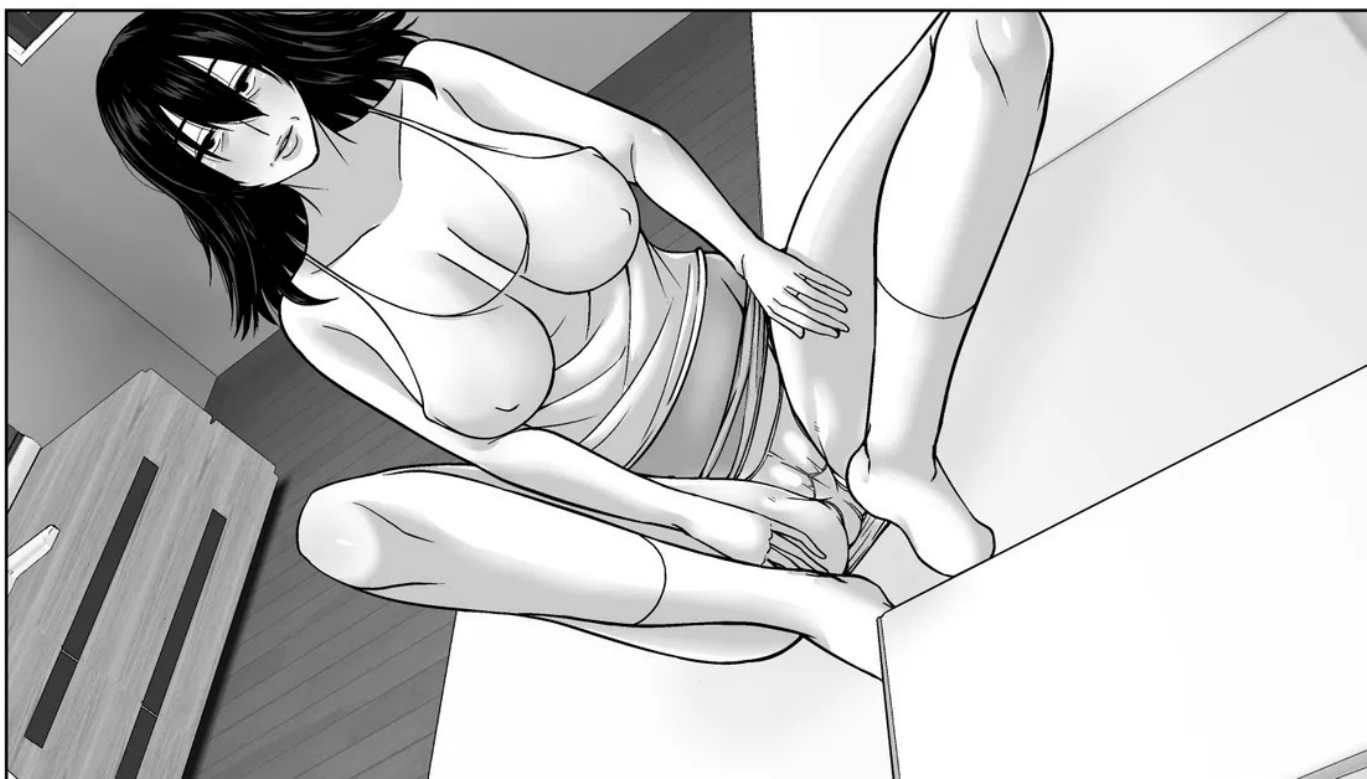
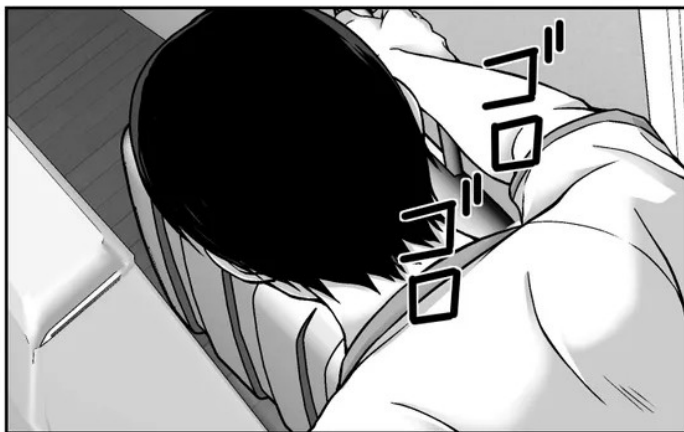






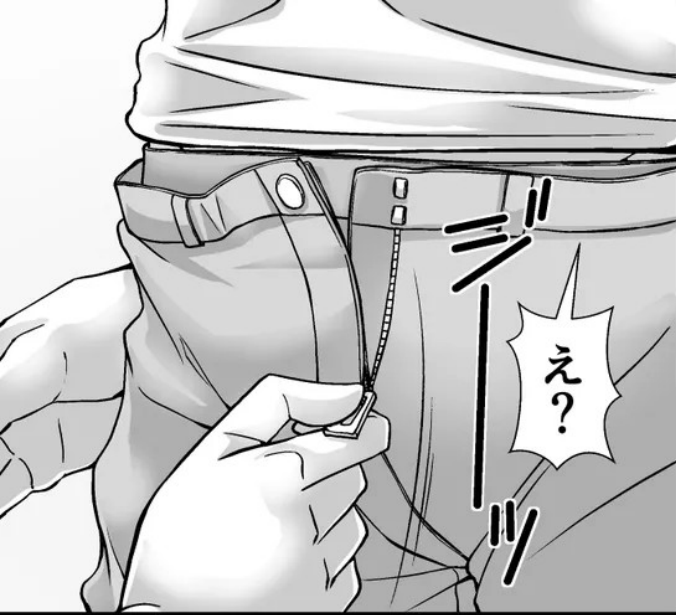
















はじめは
後ろめたさも
感じたけど

そんな事言ってもさ
母さんも気持ちいい

仕事の漫画でも
妄想した母子ものばかり
描く毎日



それからはもう
そのパターンしか
考えられず



罪悪感とはつくに
乗り越えました



何千回と妄想して

はあ



妄想しては

毎日オナニーをしての
繰り返し







私はいつでも
待ってますよ

たもつさんが
私に襲い掛かって
きてくれるのを



はあ：
はあ：

う うそだろ：
なんでこんな事に

う 産みの親に
チンポ舐められて
誘惑されるなんて



でもそれは妄想で
血の繋がった肉親だぞ：

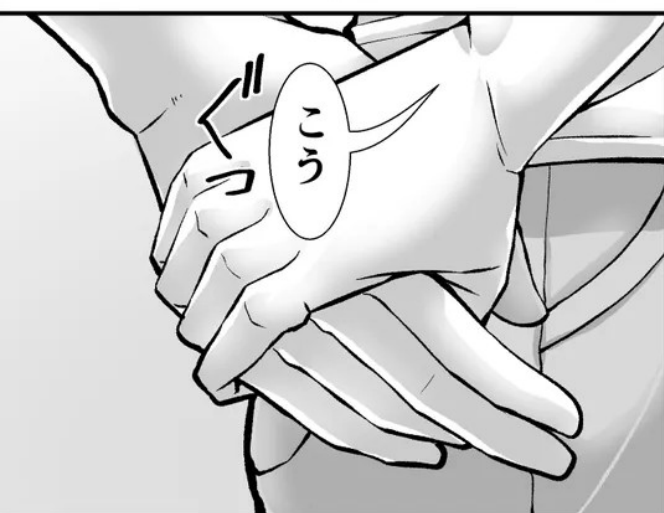


確かに目の前に現れた時は
全然母親に見えなかったし
実感もなかった

色っぽい体が目に入っただし
一緒に住んだ時のエロい
妄想も正直した：















ごめんなさいね
たもつさん
ベットとお布団
ここに一つしかなくて

いいいえ

んっ



でも幸いダブルベッドだし
こうやってくっついて寝れば
狭くないですね?

はい...

あっ

あっ

じゃあこれから
同じベッドで
一緒に寝ましょうね

はい...





お
オレ…！

どうしました？
私におちんちん
入れるつもりですか？



私はとっくに
準備できてますから

遠慮なく
おちんちん
入れてください

くはあ…



いいんですか？
そう思えなくても
私は母親ですよ



入れたいです…！







